

科目名	教育学概論（卒業必修：保育士必修：幼稚園教諭二種必修）		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2023年度 前期	単位数	2
担当教員	高田 正哉		
内容および計画	<p>本科目は、幼稚園教諭二種免許「教育の基礎的理解に関する科目」にあたる〈教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〉と〈教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〉、および保育士資格「保育の本質・目的に関する科目」〈教育原理〉に関わる科目である。</p> <p>受講生は、主に①教職課程コア・カリキュラムおよび保育士資格取得の要件を学び、保育者として求められる教育・保育への基本的な理解を得ること、② 本学幼児教育学科の学生として求められる、教育への基本的な視座である「教育の歴史的・思想的な理解」「教育の制度的・経営的な視点」を習得することが求められる。以上の事項のことを理解し、自ら説明する能力を習得することで、自らの幼児教育・児童福祉等の実践が、いかなる理念によって行われており、どのような観点から実践・政策を修正・改善しうるのかを考えられるようになることが求められる。</p> <p>本講義では、前半部と後半部に分けられる。前半部では、教育の思想的・歴史的な理解として、主な教育思想家を取り上げ、その思想家が生きた時代背景とその内容、現代の教育への示唆を取り上げる。後半部では、前半部の教育の思想・歴史を踏まえ、その理念が現代の教育制度・教育法令としてどのように実現されているのか、現代の教育動向や法制度を概観する。第15回では、現代の教育問題を取り上げ、その問題についてワークショップ形式で考え、自らが関わる問題として「教育」を理解する。</p> <p>本講義は、教育学、教育という分野における基本的な理念や知識を学ぶ科目である。本講義で学ぶ項目は、一見すると幼児教育の実践において直接的な視座を与えるものではないであろう。しかしながら、本講義で扱う教育の理念・歴史、および教育の制度的・経営的な視座は、将来教育現場で実践するうえでの根幹となる部分となる。教育の理念・歴史を学び、教育の経営的・制度的な理解をすることで、自らがどのような文脈において実践しており、未来にどのような実践をしようのかを想像し、創造することにつながる。以上のことを理解した上で、幼児教育の実践から一歩引いた、あるいは一歩先回った「批判的思考」「想像力」を養うことを期待したい。</p>		
1	<p>「教育」という営みの意味・意義</p> <p>「教育」という営みは、学校・家庭のみならず、あらゆる場面で見られる出来事である。本講義では、「教育」という出来事を学ぶ意味・意義を考える。そのことで、「教育」という一見すると当たり前の出来事が、実は多様なものであることを理解する。</p>		
2	<p>「教育」の黎明期の思想： 古代ギリシアの教育思想</p> <p>本講義では、「教育」の意義・意味をはじめ考察した黎明期の思想の一つである古代ギリシアの教育思想家であるプラトンとアリストテレスの教育思想を学ぶ。そのことで、人間が「教育」という出来事についてはじめどのように考えていたのかを理解する。</p>		
3	<p>教育の対象としての「子ども」： ロックとルソーの教育思想</p> <p>本講義では、教育の対象としての「子ども」という概念について学ぶ。「子ども」という存在は、近代に発見された。その「子どもの発見」について、近代における教育思想家であるジョン・ロックとジャン・ジャック・ルソーの思想を手がかりに、「育てられる存在」としての「子ども」がどのようなものか理解する。</p>		
4	<p>近代教育の発展： ペスタロッチとフレーベルの教育思想</p> <p>本講義では、近代の教育思想を踏まえて、同時代にどのように教育思想が発展し、教育実践に応用されたのか、ペスタロッチとフレーベルの教育思想から学ぶ。子どもを育てるという思想は、子どもを育てる実践的な思想に結びついた。そのような実験的な実践がどのようなもので、どのように現代に影響を与えたのかを理解する。</p>		
5	<p>現代の教育思想： ジョン・デューイの教育思想？</p> <p>本講義では、古代～近代における教育思想の形成を踏まえて、現代の教育思想の重要人物であるジョン・デューイの教育思想について学ぶ。ジョン・デューイは、古代から現代までの教育思想を共に高めていこうと考える。そのようなデューイの教育思想がどのようなものか、「主体的・対話的で深い学び」という考え方と比較しながら理解する。</p>		
6	<p>学校の教育思想： ジョン・デューイの教育思想？</p> <p>本講義では、現代の学校教育に影響を与えた思想家であるジョン・デューイの教育思想を学ぶ。現代の学校教育において、「探究的な学び」というものが重要視されている。「探究的な学び」は、デューイが提唱した考え方であり、その影響は大きい。デューイの学校教育のアイデアについて、「シカゴ実験学校」の実践事例から理解する。</p>		
7	<p>日本の近代教育の発展： 明治時代～戦前の教育史</p> <p>本講義では、日本の教育史について、学校教育が発展した明治時代～昭和初期の歴史について学ぶ。また、</p>		

	その時代に典型的な教育思想も一部取り扱う。現代の学校の考え方や制度は、近代に形成されたシステムをある程度受け継いでいる。日本の近代教育の発展を踏まえて、現代の教育制度・経営の基本的な背景を理解する。
8	現代日本の教育： 戦後日本の教育と公教育のシステム 本講義では、日本の公教育のシステムについて、戦後日本の教育史を手がかりに学ぶ。現代の日本の公教育は、戦後教育改革においてある程度決定づけられた。その教育改革の考え方や発展を学ぶことを通じて、日本の公教育のシステムの理念と制度を理解する。
9	日本の教育制度： 学校教育と教育委員会 本講義では、日本の教育制度について、主に学校教育と教育委員会という2つから学ぶ。学校教育は、戦後教育改革より改革されたが、そこでの主な点は、学校と地方自治体による学校経営・学級経営である。日本の個々の自治体における事例等も踏まえて、学校の成り立ちについて理解する。
10	日本の教育法令： 教育基本法を中心に 本講義では、日本の教育法令について、教育基本法を中心にして学ぶ。教育基本法は、日本の公教育の理念と制度の骨子となっている。その骨子たる教育基本法と、制度的な骨格をつくる学校教育法等の教育法令を学ぶことで、日本の教育法令がどのようなものかを理解する。
11	海外の教育制度： 制度の比較から理解する 本講義では、海外の教育制度を日本の教育制度と比較しながら学ぶ。教育制度は、近代化の過程において主にヨーロッパにおいて発展してきた。しかし、その発展や制度のあり方は、各々の国によって異なる。海外と日本との比較を通じて、日本の教育制度のあり方、海外の教育制度との相違点を明らかにする。
12	教育における学校経営・学級経営の意味 本講義は、学校経営・学級経営のあり方について学ぶ。近年、各学校において、教職員による学校経営・学級経営が行われるようになってきている。教職員各々がどのようにして学校経営・学級経営を行っているか、事例等を踏まえながら理解する。
13	学校と地域：の連携 コミュニティスクールを中心に 本講義は、学校と地域の連携について、「コミュニティスクール」の理念と実践を通じて学ぶ。コミュニティ・スクールは、福島県はじめ全国多くの自治体において導入されている。コミュニティスクールの理念と運営について学ぶことで、地域の中で教育をつくる方法や考え方を理解する。
14	学校の安全と災害： リスクコミュニケーションを中心に 本講義では、子どもにとって学校が安心・安全な場となるよう、どのような安全対策を行いうるかを学ぶ。現代社会において、ますます自然災害が増加してきている。また、子どもの日常におけるリスクを認識することが、保育者に求められている。「リスク・コミュニケーション」の視座と方法を学ぶことで、これららのリスクを事前に理解し、対策できるような視座を理解する。
15	総括： これからの教育への展望 本講義は、全15回の講義を総括し、各々がどのような「理想の教育」を考えるかを考えるものである。教育の理念・歴史、および経営的・制度的な理解は、幼児教育の実践を改善し、よりよいものにするための視座となりうる。本講義での学びを踏まえて、どのような「理想の教育」を描けるかを、ワークショップ形式で考える。

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
教育思想史	今井康雄	有斐閣	9784641123847	2009

参考書

『幼稚園教育要領<平成29年告示>』文部科学省
『保育所保育指針<平成29年告示>』厚生労働省
『幼稚園教育要領解説』文部科学省 『保育所保育指針解説書』厚生労働省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、厚生労働省、文部科学省

成績評価

評価方法	割合(%)
------	-------

中間テスト	30
期末テスト	40
各回の課題（コメントシート）	30
<p>本講義では、毎回コメントシートを提出する。コメントシートの提出等は、講義中に指示する。中間レポートは、本講義の前半部分である〈教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〉に関するレポートを執筆する。期末試験では、〈教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〉と〈教育に関する社会的、制度的又は経営的事項〉の専門的事項の説明等、知識を問うことが中心となる。具体的なことは、講義中に示す。</p>	
学習到達目標	<p>本講義の到達目標は、幼稚園教諭二種免許、保育士資格の要件たる教育の歴史的・思想的な理解を通して、現代の教育問題、教育実践の背景と分析をする能力を身につけることである。また、教育の制度的・社会的および経営的事項についての理解から、教育問題を制度的・社会的に検討する能力を身につける。以上のことを身につけることで、幼児教育の実践から一歩引いた、あるいは一歩先回った「批判的思考」「想像力」を養うことを期待したい。</p>
先修条件	<p>地理歴史・公民科の高等学校での学修を講義の前提とするため、高等学校の学修内容を事前に復習すること。また、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』を踏まえた講義となるため、受講前に一読することを求める。</p>
実務経験	<p>社会教育委員（上田市） 教育委員会での勤務（委託業務） 教育情報化の実践（委託業務）</p>
その他	<p>講義に関する質問があれば、オフィスアワーに研究室に訪問することを推奨する。オフィスアワーの訪問には、事前の許可は必要ない。オフィスアワー外での質問等も受け付けているので、必要があれば担当教員に声かけをしていただきたい。</p>